
User's
Manual

WX1
GateMX/MW
ユーザーズマニュアル

vigilantplant.[®]

はじめに

本書は、GateMXMW の機能や操作について説明しています。ご使用前にこのマニュアルをよくお読みいただき正しくお使いください。お読みになったあとはご使用時にすぐにご覧になれるところに大切に保存してください。

GateMXMW は、MX100/MW100 データアキュイジションユニットから測定データを収集し、DAQLOGGER やリモートモニタにそのデータを供給するソフトウェアです。

ご注意

- 本書の内容は、性能・機能の向上などにより、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、お手数ですが、お買い求め先までご連絡ください。
- 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。
- ソフトウェアを同時に複数のコンピュータで使用することを禁止します。また、複数の使用者によって使用することも禁止します。
- ソフトウェアを第三者に譲渡することおよび貸与することを禁止します。
- 当社はソフトウェアのパッケージを開封した時点で、オリジナルディスクに物理的な欠陥がある場合を除き、いかなる保証もいたしません。
- **ライセンス番号は再発行できません。ライセンス番号は大切に保管してください。**

著作権

- CD-ROM に含まれるプログラムの著作権は当社に帰属します。

商標

- DAQWORX、DAQLOGGER、および DAQEXPLORER は、当社の登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標または商標です。
- 本書に記載している製品名および会社名は、各社の登録商標または商標です。
- 本書では各社の登録商標または商標に、® および ™ マークを表示していません。

履歴

- 2003 年 12 月 初版発行
- 2005 年 2 月 2 版発行
- 2006 年 3 月 3 版発行 (表紙タイトル変更)
- 2007 年 6 月 4 版発行
- 2008 年 3 月 5 版発行
- 2009 年 1 月 6 版発行
- 2011 年 1 月 7 版発行
- 2011 年 10 月 8 版発行
- 2014 年 6 月 9 版発行

ソフトウェア使用許諾契約書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは横河電機株式会社（以下「横河」といいます）のソフトウェアをお求めいただきまして誠にありがとうございます。本ソフトウェアをインストールまたは使用することにより、お客様は本契約の各条項に同意したものとみなされます。本契約に同意いただけない場合は、本ソフトウェアのインストールおよび使用は行わず、直ちに本ソフトウェアの販売元にご連絡ください。本ソフトウェアを未使用のまま返品いただくことにより、本ソフトウェアについてお支払い済みの金額について戻戻しを受けられる場合があります。

ソフトウェア使用許諾契約書

第1条（適用範囲）

本契約は、横河の以下の製品およびこれに付帯して提供される関連資料（以下併せて「横河ソフトウェア製品」といいます）に適用します。横河が別に定める場合を除き、横河が提供する横河ソフトウェア製品の改訂版および機能追加版についても本契約が適用されます。

対象製品：DAQWORX（但し、購入した品目のソフトウェアに限る）

第2条（使用権の許諾）

- 横河は、お客様に対し、横河ソフトウェア製品について、別途合意した使用料を対価として、以下のライセンス数と同じ台数のコンピュータ上における、お客様の自己使用を目的とした、非独占的かつ譲渡不能の使用権を許諾します。
ライセンス数：1
- 横河が書面により別途合意または規定した場合を除き、次の行為は禁止されます。
 - 横河ソフトウェア製品を複製すること（ただし、バックアップ用に1部複製することは可能としますが、この場合複製物の管理に厳重な注意を払うものとします。）
 - 横河ソフトウェア製品またはそれらの使用権を第三者に販売、転貸、頒布、譲渡、質入もしくは再使用を許諾したり、公衆送信もしくは送信可能化すること
 - ネットワークを介して指定コンピュータ以外のコンピュータ上で横河ソフトウェア製品を使用すること
 - ダウンロード、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング等により横河ソフトウェア製品をソースプログラムその他人間が読み取り可能な形式へ変換もしくは複製すること、修正もしくは他の言語への翻訳等により横河ソフトウェア製品を提供された形式以外に改変すること、またはこれらを試みること
 - 横河ソフトウェア製品に使用または付加された保護の機構（コピープロテクト）を除去したり、除去を試みること
 - 横河ソフトウェア製品に表示されている著作権、商標、ロゴその他の表示を削除すること
- 横河ソフトウェア製品およびそれらに含まれる一切の技術、アルゴリズム、ノウハウおよびプロセスは、横河または横河に対し再使用許諾権または譲渡権を付与している第三者の固有財産および営業秘密であり、横河ソフトウェア製品の権利は横河または当該第三者に帰属し、お客様に権利の移転や譲渡を行うものではありません。
- 前項記載の固有財産および営業秘密ならびにキーコード等は、横河ソフトウェア製品を使用するために必要とされるお客様の役員、従業員またはそれに準じる者以外の第三者に開示、漏洩しないものとし、お客様は当該従業員等に対しては秘密保持の義務を負わせるものとします。
- 本契約終了または解除時は、横河ソフトウェア製品およびその複製物を横河に返却するとともに、コンピュータまたは記憶媒体に記録されている複製物を完全に消去するものとします。横河ソフトウェア製品およびその複製物が記録されている記憶媒体を廃棄する場合は、必ずこれに記憶されている内容を完全に消去するものとします。
- 横河ソフトウェア製品には、横河が第三者（横河の関係会社を含みます）から再使用許諾権または譲渡権を付与されているソフトウェアプログラム（以下「第三者プログラム」という）を含む場合があります。かかる第三者プログラムの供給者（以下「供給者」といいます）が本契約と異なる使用許諾条件を定めている場合には、別途提示される当該条件が本契約に優先して適用されます。第三者プログラムによっては、お客様が供給者から直接使用許諾を受ける形態のものもあります。
- 横河ソフトウェア製品には、オープンソースソフトウェア（以下「OSS」といいます）が含まれる場合があります。OSSについては、別途提示される条件が本契約に優先して適用されます。

第3条（特定用途に関する制限）

- 横河ソフトウェア製品は、横河、お客様間に別途書面で合意した場合を除き、航空機の運行、船舶の航行もしくはこれらを地上でサポートする機器、鉄道施設、原子力施設もしくは放射線関連機器、または医療機器もしくは医療施設に関連した使用、その他高度な安全基準が求められる状況下での使用を目的として設計、製造または使用許諾されたものではありません。
- お客様が前項の目的で横河ソフトウェア製品を使用する場合には、横河および供給者は当該使用により発生するいかなるクレームおよび損害に対しても責任を負わないものとし、お客様は、お客様の責任においてこれを解決するものとします。

第4条（保証）

- 横河ソフトウェア製品は、当該製品完成時または出荷時の現状のままお客様に提供されるものとし、記録媒体の破損または損傷を除き、横河および供給者は瑕疵担保責任その他の保証責任を一切負わないものとします。記録媒体に破損、損傷などの瑕疵が発見された場合は、出荷後12ヶ月に限り、横河はこれを無償で交換します（ただし、お客様の費用で横河の指定するサービス拠点に当該ソフトウェア製品の記憶媒体を送付していただく場合に限ります）。横河はいかなる場合であっても、横河ソフトウェア製品に瑕疵および不具合のないこと、的確性、正確性、信頼性もしくは最新性などの品質上または性能上の明示もしくは黙示の保証をするものではありません。また、横河ソフトウェア製品が他のソフトウェアとの間で不整合、相互干渉などの影響のないことを保証するものでもありません。
- 横河は、自己の判断により必要と認めた場合、横河ソフトウェア製品に関するバージョンアップ（以下、「バージョンアップ」といいます）を実施し、これを有償または無償にて提供することがあります。ただし、横河は、バージョンアップまたはバージョンアップ後の製品をお客様に提供する義務を負うものではありません。
- 製品によっては、有償保守サービスが提供される場合があります。保守サービスの範囲および条件は、横河が別途定めるところによります。ただし、横河が保守対応をするのは、カタログまたは一般仕様書に別に記載のない限り、最新のバージョンおよびその直前のバージョンまでとし、直前のバージョンについてはバージョンアップ後5年間に限るものとします。また、受注停止のものについては、受注停止後5年以内に限り対応します。標準品以外の製品については、保守対応できない場合があります。なお、横河以外により改変または修正された横河ソフトウェア製品については、横河は一切対応しないものとします。

第5条（特許権、著作権等の侵害に関する損害賠償責任）

- お客様は、横河ソフトウェア製品につき、第三者から特許権、商標権、著作権その他の知的財産権の侵害に基づき使用の差し止め、損害賠償請求等が行われた場合は、書面にて直ちに請求の内容を横河に通知するものとします。
- 前項の通知がなされた、当該請求等が横河の責に帰すべき事由による場合は、その防御および和解交渉について、お客様から横河に防御、交渉に必要なすべての権限を与えていただき、かつ必要な情報および援助をいただくことを条件に、横河は自己の費用負担で当該請求等の防御および交渉を行い、前項記載の第三者に対して最終的に認められた責任を負うものとします。
- 横河は第1項における請求またはその恐れがあると判断した場合は、横河の選択により、横河の費用で下記のいずれかの処置を取ることができるものとします。
 - 正当な権利を有する者からかかる横河ソフトウェア製品の使用を継続する権利を取得する。
 - 第三者の権利の侵害を回避できるようなソフトウェア製品と交換する。
 - 第三者の権利を侵害しないようにかかる横河ソフトウェア製品を改造する。
 - 前各号の処置がとれない場合、本契約を解除し、かかる製品の簿価のうち既に横河が受領した金額を限度として損害を賠償する。
- 前各項にかかわらず、第1項の請求にかかる侵害が、横河以外の者による横河ソフトウェア製品の改変に起因する場合、横河以外の第三者が納入した製品と横河ソフトウェア製品との組み合わせによる場合、お客様または発注者の指示に起因する場合、横河の助言に従わない場合その他横河の責に帰すべき事由によらない場合は、横河は前各項の責任を負わないものとします。
- 本条の定めが知的財産権侵害に関する横河および供給者の責任のすべてとします。本条にかかわらず、第三者プログラムまたはOSSに起因する請求等については別途提示される条件が優先します。

第6条（責任の制限）

- 本契約に従って使用されている横河ソフトウェア製品によって、横河の責に帰すべき事由によりお客様が損害を被った場合は、横河は、本契約の規定に従って対応するものとしますが、横河および供給者は、いかなる場合においても、派生損害、結果損害、その他の間接損害（営業上の利益の喪失、業務の中断、営業情報の喪失等による損害その他）については一切責任を負わないものとし、かつ横河の責任（前条における責任を含む）は、かかる横河ソフトウェア製品について横河が既にお支払いを受けた金額の残存簿価を限度とします。なお、横河が納入した製品につきお客様が横河の書面による事前の承諾なく改造、改変、他のソフトウェアとの結合を行い、またはその他、カタログ、一般仕様書、基本仕様書、機能仕様書もしくはマニュアルとの相違を生じさせた場合は、横河は一部または全ての責任を免れることができるものとします。
- 本契約の遂行または違反その他本契約に関してお客様が横河に対して有するすべての請求権は、請求の原因となる事由の発生から3ヶ月以内に横河に対して書面で通知しない限り、当該3ヶ月の経過をもって消滅するものとします。

第7条（輸出規制）

お客様は、事前に横河の同意を得た場合を除き、横河ソフトウェア製品の全部または一部を、直接、間接を問わず輸出または他国に提供しないものとします。横河が同意した場合、お客様は、日本国、アメリカ合衆国その他関連国の輸出関連法規を遵守し、自らの責任と費用において輸出入許可の取得その他必要な手続きを行うものとします。

第 8 条 (監査、使用の差止め)

1. 横河は、お客様による本契約の履行を確認するため、合理的な範囲で、お客様の関連施設に立ち入り監査することができるものとします。
2. 横河ソフトウェア製品の使用許諾後といえども、使用環境の変化または許諾時には見出せなかった不適切な環境条件が見られる場合、その他横河ソフトウェア製品を使用するに著しく不適切であると横河が判断した場合には、横河はお客様に対して当該使用を差止めることができるものとします。

第 9 条 (譲渡)

お客様は、横河ソフトウェア製品の譲渡を行う場合は、譲受人に本契約が適用されることを明示しこれを順守させるとともに、横河ソフトウェア製品をすべて譲受人に譲渡し、お客様自身が保有する複製物を完全に消去するものとします。

第 10 条 (解除)

横河は、お客様が本契約に違反した場合には、何ら催告を要することなく通知をもって本契約を解除できるものとします。この場合お客様は直ちに横河ソフトウェア製品の使用を中止し、第 2 条第 5 項に従い横河ソフトウェア製品およびその複製物を返却または消去するものとし、支払い済みの使用料は返金されないものとします。本契約終了後といえども第 2 条第 4 項および第 5 項、第 3 条、第 5 条、第 6 条および第 11 条は効力を有するものとします。

第 11 条 (管轄裁判所)

横河ソフトウェア製品の使用または本契約に関して生じた紛争については、両者誠意を持って協議解決するものとします。ただし、一方当事者が他方当事者に協議解決をしない旨の通知後 90 日以内に両当事者間で協議が整わない場合は東京地方裁判所 (本庁) を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

以上

このマニュアルの利用方法

このマニュアルの構成

このユーザーズマニュアルは、以下に示す第 1 章～第 3 章、および索引で構成されています。

章	タイトル	内容
1	概要	GateMXMW の機能概要を説明しています。 また、GateMXMW を使用するときに必要な PC 環境、システムの構成などを説明しています。
2	操作方法	GateMXMW の操作方法について説明しています。
3	エラーメッセージと対処方法	エラーメッセージとその対処方法について説明しています。
索引		アルファベット順、五十音順の索引を記載しています。

このマニュアルにおける説明の範囲

このマニュアルでは、オペレーティングシステム (OS) の基本的な操作については説明していません。OS の基本的な操作については、それぞれのユーザーズガイドなどをお読みください。

このマニュアルで使用している記号

● 単位

- K 「1024」の意味です。 使用例：10KB
- M 「1024K」の意味です。 使用例：10MB
- G 「1024M」の意味です。 使用例：2GB

● 表示文字

ソフトウェア上の表示文字は、「」で囲んで表記しています。

● 操作説明ページで使用しているシンボル

第 2 章で操作説明をしているページでは、説明内容を区別するために、次のようなシンボルを使用しています。

操作手順

数字で示す順序で各操作をしてください。ここでは、初めて操作をすることを前提に、手順を説明しています。操作内容によっては、すべての操作を必要としない場合があります。

Note

操作をするうえで、知っているると便利な情報が記載されています。

目次

はじめに.....	i
ソフトウェア使用許諾契約書.....	ii
このマニュアルの利用方法.....	iv

第 1 章 概要

1.1 GateMX/MW の機能概要.....	1-1
特徴.....	1-1
操作手順.....	1-1
1.2 システム概要.....	1-2
ソフトウェアの環境条件.....	1-2
ハードウェアの環境条件.....	1-2
システム構成.....	1-3
ソフトウェア構成.....	1-3

第 2 章 操作方法

2.1 GateMX/MW を起動する / 終了する.....	2-1
2.2 接続する MX100/MW100 を登録する.....	2-2
2.3 接続先の MX100/MW100 の情報を取得する、チャンネル数と収集周期を設定する.....	2-4
2.4 データ収集を開始する / 停止する.....	2-6
2.5 DAQLOGGER/ リモートモニタ /Add-on ソフトウェアから接続する.....	2-9
DAQLOGGER から接続する場合.....	2-9
リモートモニタから接続する場合.....	2-9
Add-on ソフトウェアから接続する場合.....	2-9
2.6 ポート番号を変更する / 設定を保存する.....	2-10
2.7 バージョン情報を表示する.....	2-11

第 3 章 エラーメッセージと対処方法

3.1 エラーメッセージと対処方法.....	3-1
------------------------	-----

索引

1.1 GateMX/MW の機能概要

GateMX/MW は、MX100/MW100 データアキュイジションユニット (以下では、単に MX100/MW100 と呼びます) からデータを収集して DAQLOGGER、リモートモニタ (ソフトウェア)、Add-on ソフトウェアに、そのデータを供給するソフトウェアです。GateMX/MW を使用することにより、MX100/MW100 で測定できるデータを DAQLOGGER、リモートモニタ、Add-on ソフトウェアで監視 / 記録できるようになります。

Note

DAQLOGGER は、多種の記録計 (μ R/VR/DARWIN/DX/MV/CX の各機種) と PC を通信接続し、データ収集や監視を行うことができるアプリケーションソフトウェアです。

リモートモニタソフトウェアは、DAQLOGGER クライアントパッケージおよび DAQ32Plus クライアントパッケージに含まれているアプリケーションソフトウェアです。リモートモニタソフトウェアを使うことで、記録計やデータ収集ソフトウェアが収集したデータを監視できます。Add-on ソフトウェアは、カスタマイズモニタやネットワーク遠隔モニタ、グループ別のデータ収集と保存、測定データを監視してのトリガデータ収集などの各種ソフトウェアです。

特徴

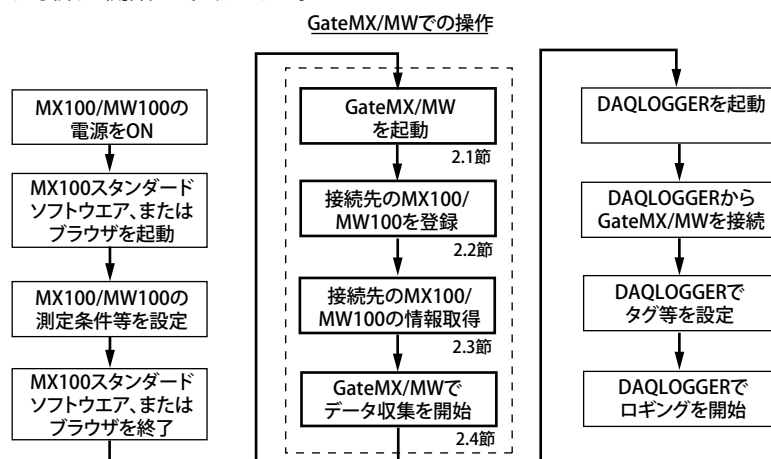
- 最大 32 台までの MX100/MW100 と通信接続できます。クライアントとなるソフトウェア (DAQLOGGER、リモートモニタ、Add-on ソフトウェア) からの接続も、最大で 32 です。
- 測定周期は、接続した MX100/MW100 の測定周期と一致します。DAQLOGGER の最速周期は 1 秒です。
- 1ch あたり保持できる最大のデータ数は、1800 点です。

Note

- GateMX/MW には、MX100/MW100 の設定機能はありません。MX100 の設定は、MX100 に標準添付の MX100 スタンダードソフトウェア、または別売ソフトウェアの MXLOGGER で行ってください。MW100 の設定は、ブラウザで行ってください。
- GateMX/MW には、演算機能はありません。
- GateMX/MW には、他の Gate にあるようなサービス機能はありません。
- MX100 スタンダードソフトウェアや MXLOGGER の表示画面には、ソフトウェア名が GateMX100 と表示される場合があります。

操作手順

DAQLOGGER で MX100/MW100 からデータを収集するときは、下記の手順で操作を行います。リモートモニタでデータをモニタするときも、下記に従って、GateMX/MW でデータ収集を開始してください。



Note

接続先の MX100/MW100 のモジュール構成を変更するときは、GateMX/MW でデータ収集を停止後、MX100/MW100 の電源を OFF にしてから行ってください。モジュール構成変更後は、MX100/MW100 の電源を ON にし、MX100 スタンダードソフトウェア、またはブラウザで再設定を行ってください。

1.2 システム概要

ソフトウェアの環境条件

次の OS で動作します。

- ・ Windows Vista Home Premium SP2 (64 ビット版を除く)
 - ・ Windows Vista Business SP2 (64 ビット版を除く)
 - ・ Windows 7 Home Premium、SP1 (32 ビット版、64 ビット版)
 - ・ Windows 7 Professional、SP1 (32 ビット版、64 ビット版)
 - ・ Windows 8 (32 ビット版、64 ビット版) (デスクトップモードに対応)
 - ・ Windows 8 Pro (32 ビット版、64 ビット版) (デスクトップモードに対応)
- オペレーティングシステムの言語とソフトウェアの表示言語は次のとおりです。

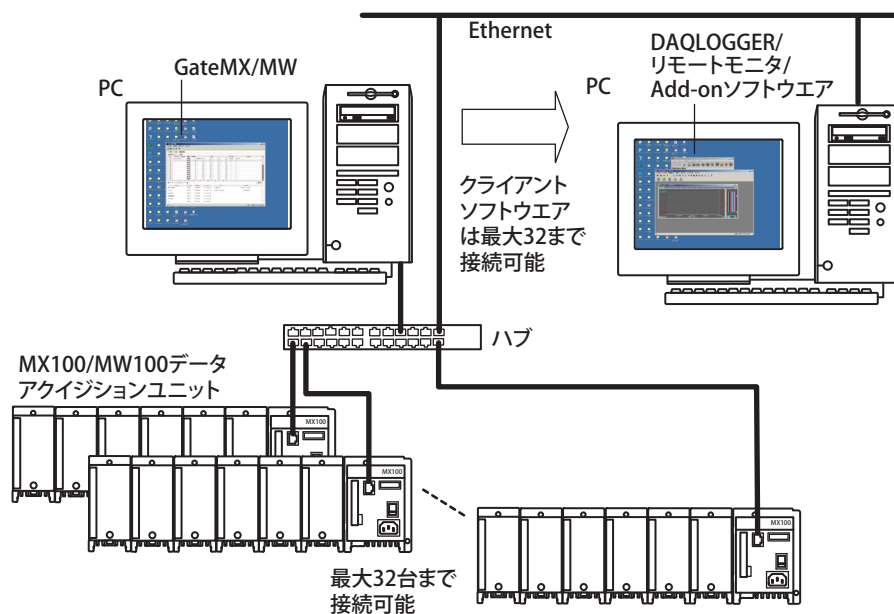
OS の言語	ソフトウェアの表示言語
日本語	日本語
その他	英語

ハードウェアの環境条件

GateMX/MW が動作するためには、以下のハードウェアの環境が必要です。

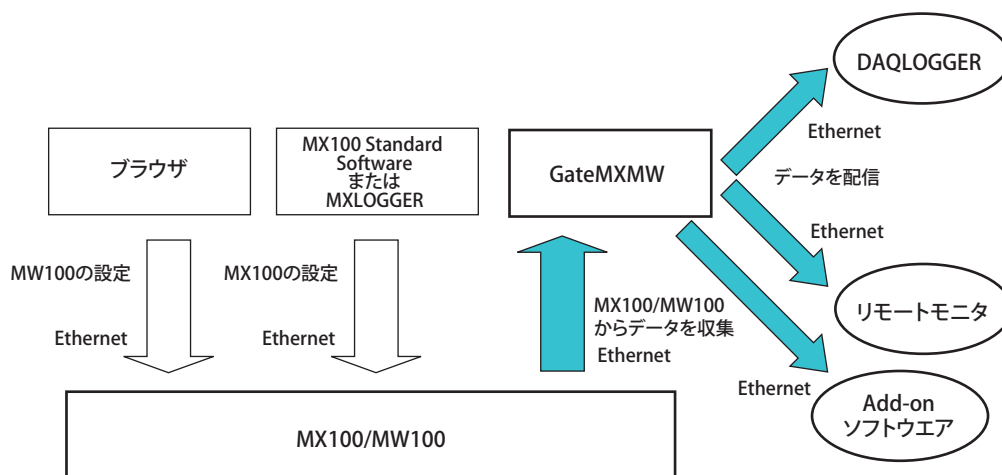
- ・ マシン機種 : 上記 OS のいずれかが動作する機種
- ・ CPU と主記憶容量 : **OS が Windows Vista、Windows 7、Windows 8 の場合**
Pentium 4 3GHz 以上のインテル社製 x64 または x86 プロセッサ。ただし、Windows 7(64 ビット版) 使用時は Pentium 4 3GHz 相当以上のインテル社製 x64 プロセッサ。2GB 以上のメモリ
- ・ ハードディスク空き容量 : 200MB 以上
- ・ 通信装置 : OS が認識する Ethernet ポート
- ・ CD-ROM ドライブ : 本ソフトウェアをインストールするときに必要
- ・ 周辺装置 : OS がサポートするマウス
- ・ ディスプレイ : OS が推奨するビデオカードと OS に対応した 1024 x 768 ドット以上、65,536 色 (16 ビット、High Color) 以上のディスプレイ。

システム構成



GateMX/MW とクライアントソフトウェアは別の PC で動作させ、負荷分散することを推奨します。

ソフトウェア構成



GateMX/MW は、接続した複数の MX100/MW100 からデータを収集します。また、モニタサーバとして、DAQLOGGER、リモートモニタ、Add-on ソフトウェアにデータを配信します。

GateMX/MW には MX100/MW100 の設定機能はありません。MX100 の設定は、MX100 に標準添付の MX100 スタンダードソフトウェア、または別売ソフトウェアの MXLOGGER で行ってください。MW100 の設定はブラウザで行ってください。また、GateMX/MW には演算機能がありません。

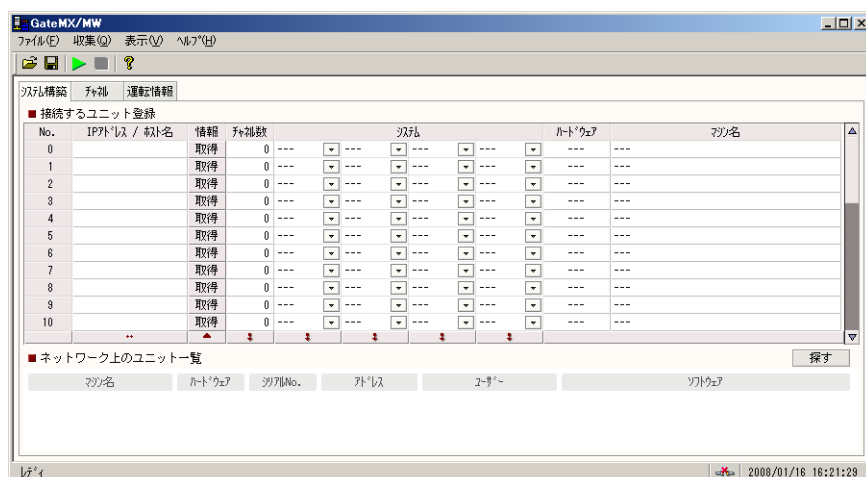
2.1 GateMX/MW を起動する / 終了する

操作手順

GateMX/MW を起動する

Windows のスタートメニューで、プログラム > YOKOGAWA DAQWORX > GateMXMW > GateMXMW を選択します。

下図のような画面が表示されます。

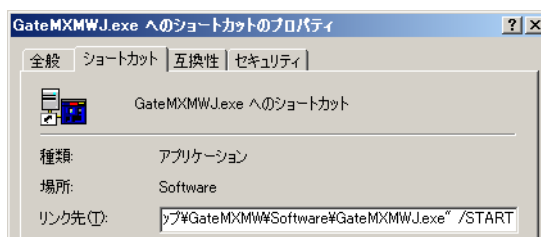


Note

GateMX/MW を起動したときの状態は、前回 GateMX/MW を終了したときの状態です。

GateMX/MW を収集開始状態で起動する

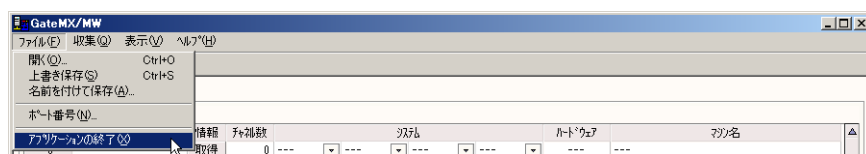
1. Windows のスタートメニューで、プログラム > YOKOGAWA DAQWORX > GateMXMW > GateMXMW を右クリックして、「ショートカットの作成」を選択します。
2. ショートカットのアイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
3. 「ショートカット」タブページの「リンク先」の名称の右側に、「/START」（半角スペースと /START）を追記して、「OK」をクリックします。



4. Windows のスタートメニューから、ショートカットを選択します。
前回終了したときの接続状態で、収集を開始します。

GateMX/MW を終了する

「ファイル」メニューの「アプリケーションの終了」を選択するか、ウィンドウのタイトルバー右端の「X」をクリックします。



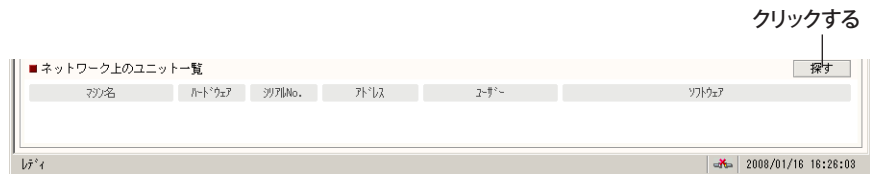
2.2 接続する MX100/MW100 を登録する

下記の操作を行う前に、接続対象の MX100/MW100 を Ethernet に接続し、電源を ON にしておきます。また、MX100 の設定は、MX100 に標準添付の MX100 スタンダードソフトウェア、または別売ソフトウェアの MXLOGGER で行っておきます。MW100 の設定は、ブラウザで行っておきます。

操作手順

1. 「探す」 ボタンをクリックします。

ネットワークに接続されている MX100 と MW100 が「ネットワーク上のユニット一覧」に表示されます。



各項目名のクリックでソートが可能

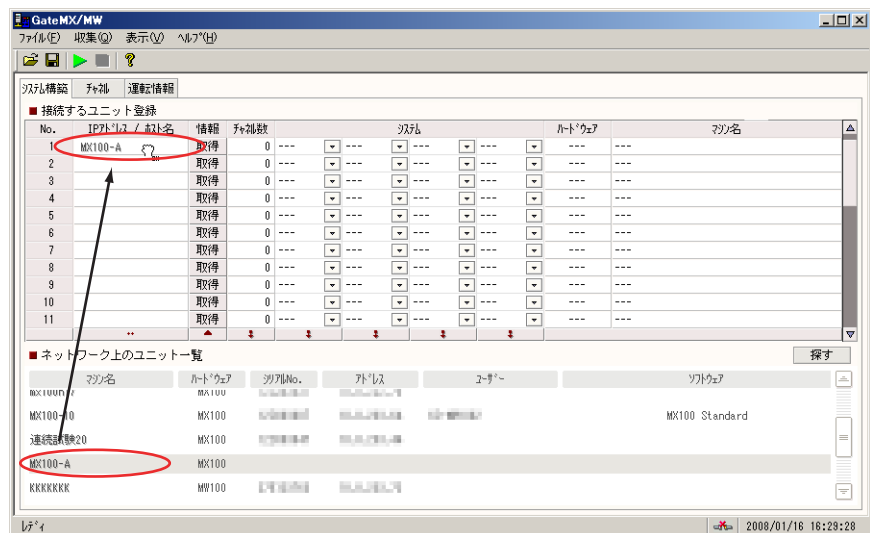


Note

接続中のユーザーがいる MX100/MW100 の「ユーザー」欄にはコンピュータ名が表示され、「ソフトウェア」欄には MX100/MW100 を使用しているアプリケーションソフトウェア名が表示されます。接続中のユーザーがいる MX100/MW100 には、GateMX/MW から接続できません。

2. 「ネットワーク上のユニット一覧」の接続したい MX100/MW100 の「マシン名」を「接続するユニット登録」エリアにドラッグ&ドロップします。

登録されると、「接続するユニット登録」エリアの「IP アドレス / ホスト名」欄に接続先 MX100/MW100 の IP アドレスが表示されます。



Note

- 「IP アドレス / ホスト名」欄に IP アドレス / ホスト名を直接入力して、登録することもできます。
- 下図のように、「No.」欄で番号を複数選択し、「IP アドレス / ホスト名」欄の下にあるボタンをクリックして、選択範囲の先頭番号の IP アドレスの数値を 1 ずつ増やした IP アドレスを登録することができます。選択範囲の先頭番号にホスト名表示されているときは、同じホスト名が登録されます。

選択する

■ 接続するユニット登録

No.	IPアドレス / ホスト名	情報	予約数	方法	ポート	マシ名
0	192.168.10.100	取得	0	---	---	---
1		取得	0	---	---	---
2		取得	0	---	---	---
3		取得	0	---	---	---
4		取得	0	---	---	---
5		取得	0	---	---	---
6		取得	0	---	---	---
7		取得	0	---	---	---
8		取得	0	---	---	---
9		取得	0	---	---	---
10		取得	0	---	---	---



■ 接続するユニット登録

No.	IPアドレス / ホスト名	情報	予約数	方法	ポート	マシ名
0	192.168.10.100	取得	0	---	---	---
1	192.168.10.101	取得	0	---	---	---
2	192.168.10.102	取得	0	---	---	---
3	192.168.10.103	取得	0	---	---	---
4		取得	0	---	---	---
5		取得	0	---	---	---
6		取得	0	---	---	---
7		取得	0	---	---	---
8		取得	0	---	---	---
9		取得	0	---	---	---
10	..	取得	0	---	---	---

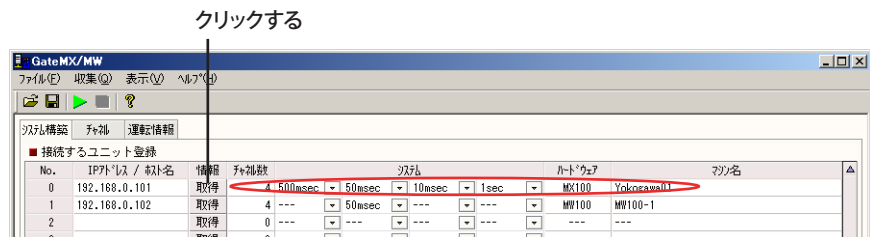
クリックする

2.3 接続先のMX100/MW100の情報を取得する、チャンネル数と収集周期を設定する

下記の操作を行う前に、「2.2 接続するMX100/MW100を登録する」に従い、接続対象のMX100/MW100を登録しておきます。

操作手順

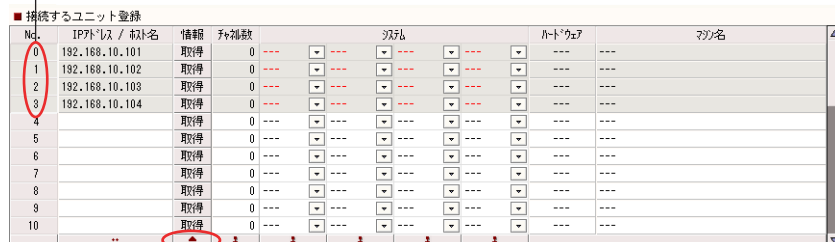
- 「接続するユニット登録」エリアの「情報」欄の「取得」ボタンをクリックします。情報取得が完了すると、「チャンネル数」、「システム」、「ハードウェア」、および「マシン名」欄にMX100/MW100の情報が表示されます。



Note

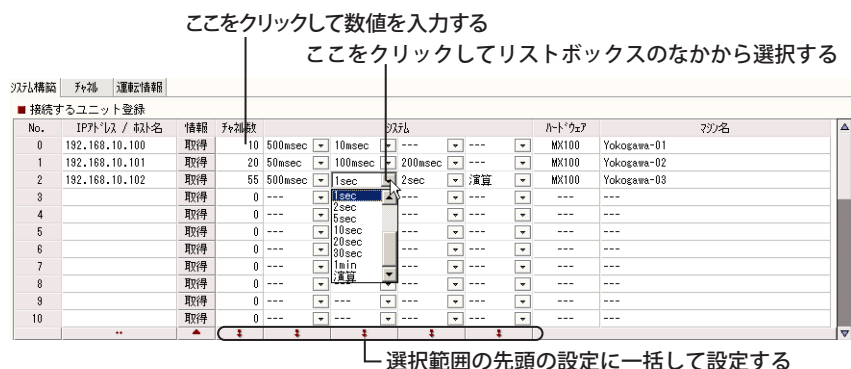
- 情報を取得しようとしたMX100/MW100がすでに他のユーザーに接続されているとき、およびネットワーク上に存在しないときは、情報が取得できず、「チャンネル数」は0と表示され、「システム」、「ハードウェア」、および「マシン名」は表示されません。
- 下図のように、「No.」欄で番号を複数選択したのち、「情報」欄の下にあるボタンをクリックすることで、複数の登録ユニットの情報取得を行うことができます。

1. 選択する



2. クリックする

- 情報を取得したあと、チャンネル数を変更するときは、「チャンネル数」の欄をクリックしたのち数値を入力します。収集周期の設定を変更するときは、「システム」欄のボタンをクリックしてリストボックスを表示させたのち、収集周期を選択します。チャンネル数を変更すると、「チャンネル」タブの表示も変更されます。



2.3 接続先の MX100/MW100 の情報を取得する、チャンネル数と収集周期を設定する

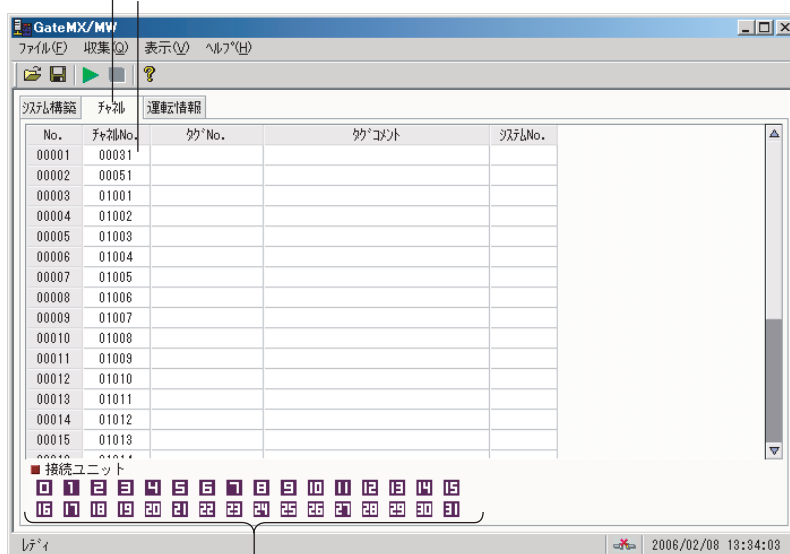
Note

システムに同じ収集周期を複数設定できます。MW100 に対して同じ収集周期を設定した場合には、測定グループ番号の若いものから順番に、それぞれのシステムに割り当てられます。また、設定した同じ収集周期の数が実際の測定グループ数よりも多いときは、実際の測定グループ数だけ有効となります。

3. チャンネル情報を表示するときは、「チャンネル」タブをクリックするか、「表示」メニューの「チャンネル」を選択します。

クリックする

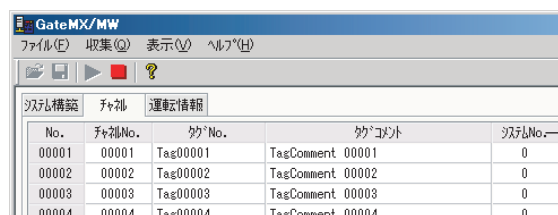
上位2桁が接続ユニットの番号、
下位3桁がチャンネル番号で100以上は演算チャンネル



番号をクリックすると、対象ユニットのチャンネル情報が反転表示される

Note

- チャンネル情報に表示されるのは、MX100/MW100 の設定でデータ収集の対象になっているチャンネルだけです。
- 手順 2 で設定したチャンネルが、実際の MX100/MW100 のチャンネル数より多い場合、存在しないチャンネル部分は空白になります。実際の MX100/MW100 のチャンネル数より少ない場合、設定したチャンネルだけ表示します。
- 接続に失敗したときは、その MX100/MW100 のチャンネル情報は空行で表示されます。
- MX100/MW100 に装着されているモジュールのチャンネルがチャンネル情報に表示されるチャンネルと一致していないときは、MX100 スタンダードソフトウェア、またはブラウザで再設定を行ってください。
- チャンネル情報の「システム No.」は、情報を取得したとき、または「システム構築」画面のシステム欄を設定したときに表示されます。
- システム No. をクリックすると、システム No. でチャンネル情報がソートされます。再びシステム No. をクリックすると、チャンネル No. でチャンネル情報がソートされます。



ここをクリックするとチャンネル情報がソートされる

2.4 データ収集を開始する / 停止する

下記の操作を行う前に、「2.3 接続先の MX100/MW100 の情報を取得する、チャンネル数と収集周期を設定する」に従い、接続対象のチャンネル情報を取得しておきます。

操作手順

データ収集を開始する

収集開始ボタンをクリックするか、「収集」メニューの「収集開始」を選択します。

クリックする



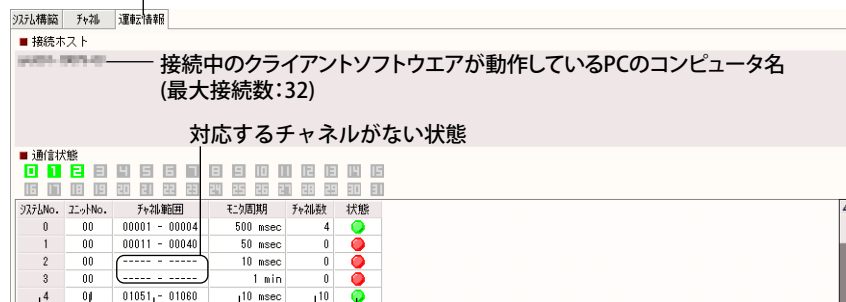
Note

- GateMX/MW を MX100 に接続した場合、データ収集中であっても、通信断時にバックアップモードにはなりません。/DS オプションを有効にしたときも、Dual Save にはなりません。
- 接続先との初回通信に失敗した場合、通信の失敗が確認されてから 10 秒後にリトライを実行します。通信を開始してから失敗が確認されるまでの時間は別途かかります。

データ収集中に運転情報を表示する

「運転情報」タブをクリックするか、「表示」メニューの「運転情報」を選択します。

クリックする



収集状態

緑 : 正常(運転中)

赤 : エラー(停止中。本体に接続できないか、または対応するチャンネルがなく収集できない状態)

同じ収集周期に割り当てられているチャンネルの数

MX100/MW100で設定されている収集周期

同じ収集周期に割り当てられているチャンネル範囲の最小/最大チャンネル番号

「システム構築」の「接続するユニット登録」で登録した「No.」

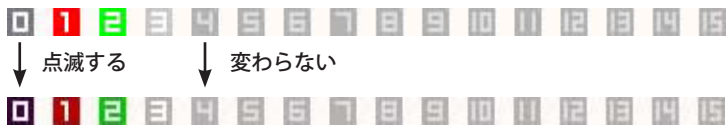
割り当てられたシステムNo.

Note

- 「通信状態」欄のユニット番号の色は、下記の状態を示します。

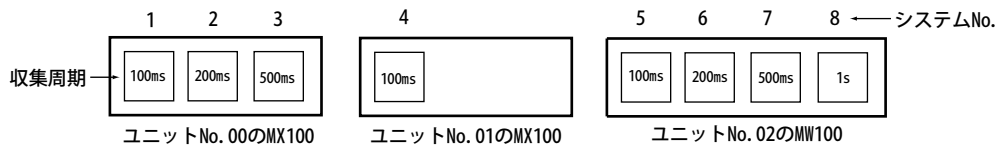
- 灰色 (文字色暗灰色) : そのユニット番号の MX100/MW100 に IP アドレス / ホスト名、チャンネル数、システムの指定ない状態である。
- 緑色 : MX100/MW100 と正常に通信し、データを収集している。
- 赤色 : そのユニット番号の MX100/MW100 に IP アドレス / ホスト名の指定があるが接続に失敗した。または、データ収集中に、通信が切断され再接続処理を実行中である。
- 黒色 : そのユニット番号の MX100/MW100 に IP アドレス / ホスト名の指定があり、接続に成功したが、データ収集を行うチャンネルが全くなかった。

アイコンが赤色表示の場合、再接続処理を行います。再接続に成功するとアイコンが緑色になり収集を再開します。
 収集停止状態ではすべて灰色 (文字色暗灰色) となります。
 収集開始すると登録があるものは点滅します。また、登録のないものは灰色 (文字色暗灰色) のまま変わりません。

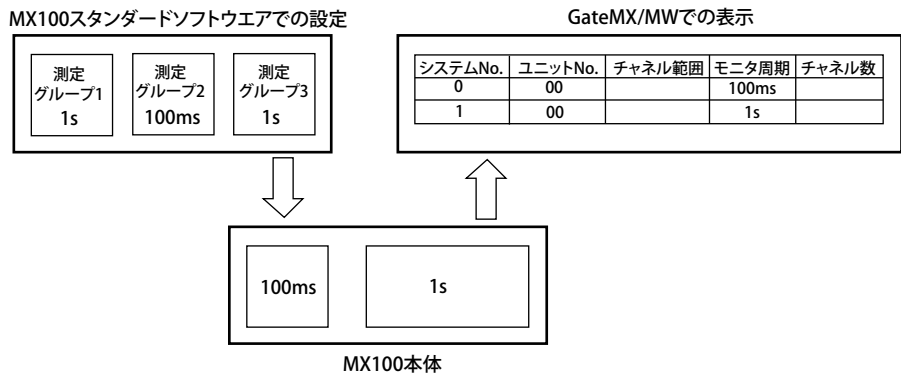


- ステータスバーに GateMX/MW の状態を表示します。「運転情報」タブで表示される通信状態が確認できます。

- システム No. は、下図のように、GateMX/MW の「システム構築」画面で割り当てられます。各 MX100/MW100 では 4 つの収集周期を設定できるので、システム No. は、0 ~ 127 の範囲で割り当てられます。

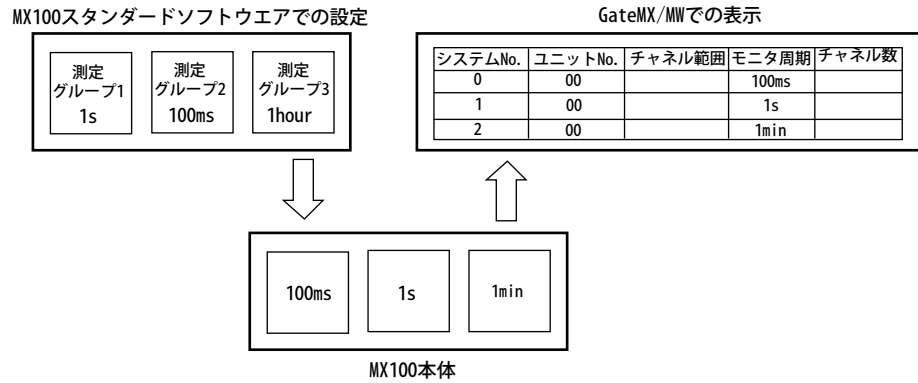


- MX100 スタンダードソフトウェアで同じモニタ周期の「測定グループ」を設定した場合 (MX100 スタンダードソフトウェアユーザーズマニュアル (IM MX180-01) 参照)、MX100 本体では、それらは同じ測定グループとして 1 つにまとめられます。したがって、GateMX/MW では、その 1 つにまとめられた測定グループを 1 システムとして表示します。

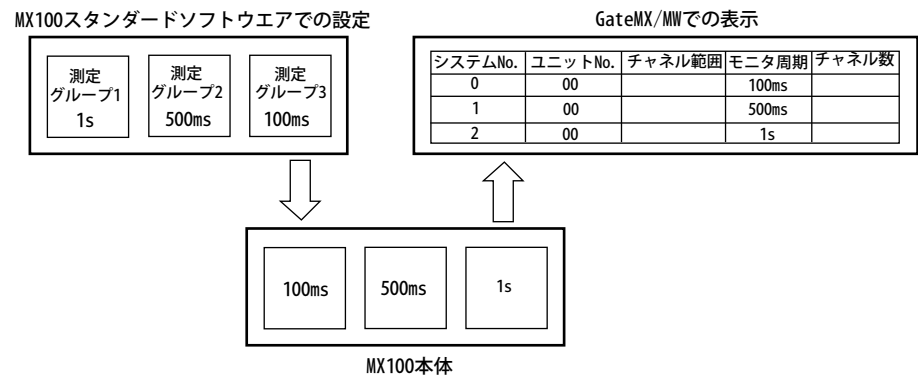


2.4 データ収集を開始する / 停止する

- MX100 スタンダードソフトウェアで 1 分より長いモニタ周期に設定した場合、MX100 本体では 1 分のモニタ周期として設定され、MX100 スタンダードソフトウェア側で間引いて 1 分より長いモニタ周期を実現しています。したがって、GateMX/MW では、MX100 スタンダードソフトウェアで 1 分より長いモニタ周期が設定されていても、モニタ周期が 1 分と表示され、1 分の周期でデータが収集されます。



- MX100 スタンダードソフトウェアで異なるモニタ周期の「測定グループ」を設定した場合、MX100 本体ではモニタ周期の速い順に並び替えます。したがって、GateMX/MW の「システム構成」画面で情報を取得すると、モニタ周期の速い順にシステム No. が割り振られます。「システム構築」画面でシステムを設定、変更したときは、設定した順にシステム No. が割り振られます。



データ収集を停止する

収集停止ボタンをクリックするか、「収集」メニューの「収集停止」を選択します。



2.5 DAQLOGGER/ リモートモニタ /Add-on ソフトウェアから接続する

GateMX/MW でデータ収集中のとき、DAQLOGGER、リモートモニタ、Add-on ソフトウェアは、Ethernet を介して MX100/MW100 のデータをロギングしたりモニタすることができます。GateMX/MW は、DAQLOGGER、リモートモニタ、Add-on ソフトウェアをクライアントとしたモニタサーバとして動作します。

DAQLOGGER から接続する場合

WX101 DAQLOGGER WX81 DAQLOGGER クライアントパッケージユーザズマニュアル (IM WX101-01) の 2.6 節をご覧ください。

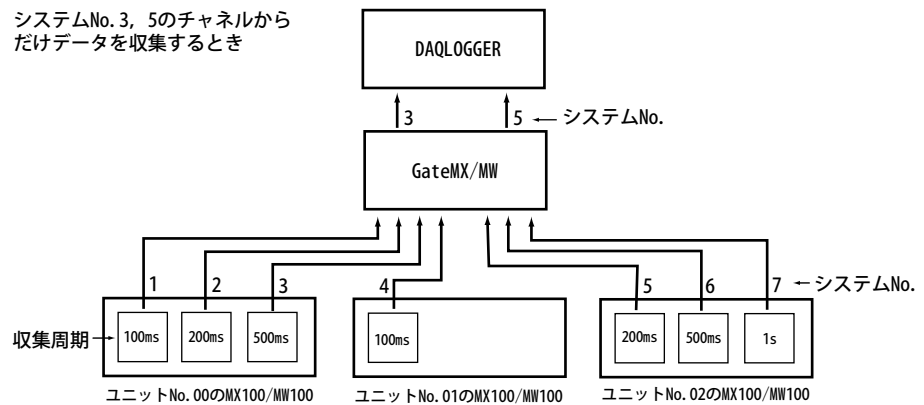
Note

DAQLOGGER から GateMX/MW に接続する場合、システム No. を指定して接続する方法と、システム No. を指定せずに GateMX/MW に接続する方法があります。接続方法の選択の仕方は、WX101 DAQLOGGER WX81 DAQLOGGER クライアントパッケージユーザズマニュアル (IM WX101-01) の 2.6 節をご覧ください。

・ システム No. を指定して接続する

GateMX/MW に接続した MX100/MW100 のうち、指定したシステム番号のチャンネルのデータだけを収集します。

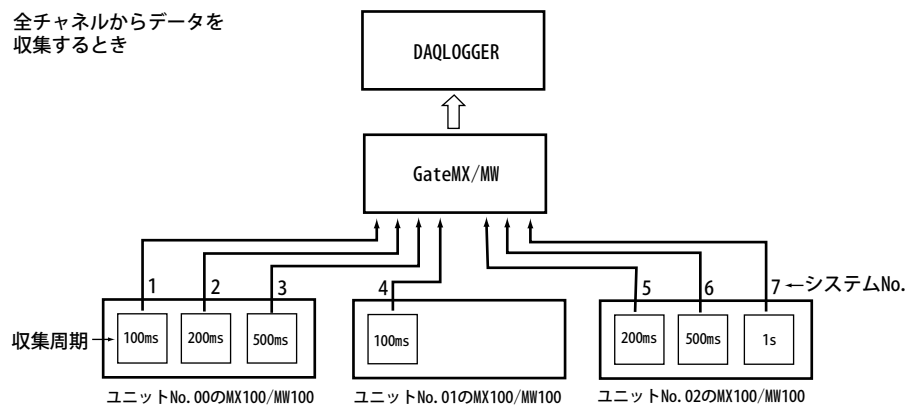
システムNo. 3, 5のチャンネルから
だけデータを収集するとき



・ システム No. を指定せずに接続する

GateMX/MW に接続した MX100/MW100 の全チャンネルのデータを 1 接続で収集します。

全チャンネルからデータを
収集するとき



リモートモニタから接続する場合

DAQLOGGER クライアントパッケージのリモートモニタから接続するときは、WX101 DAQLOGGER WX81 DAQLOGGER クライアントパッケージユーザズマニュアル (IM WX101-01) の 8.1 節をご覧ください。

DAQ32Plus クライアントパッケージのリモートモニタから接続するときは、WX102 DAQ32Plus WX82 DAQ32Plus クライアントパッケージユーザズマニュアル (IM WX102-01) の 9.2 節をご覧ください。

Add-on ソフトウェアから接続する場合

それぞれのユーザズマニュアルをご覧ください。

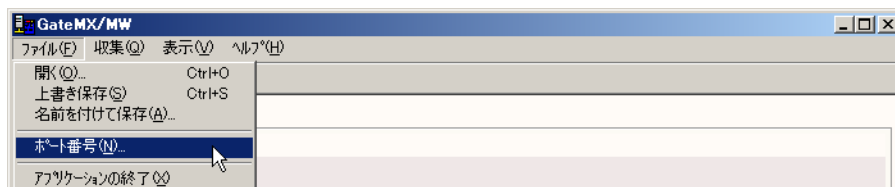
2.6 ポート番号を変更する / 設定を保存する

操作手順

ポート番号を変更する

DAQLOGGER/ リモートモニタからの通信接続に使用する TCP/IP のポート番号を変更するときの操作です。

1. 「ファイル」メニューの「ポート番号」を選択します。
ポート番号設定ダイアログボックスが表示されます。



2. モニタサーバに使用するポート番号を入力します。
初期設定値は、「50297」です。



3. 「OK」ボタンをクリックしたのち、GateMX/MW を再起動します。
GateMX/MW を再起動しないと、設定変更したポート番号が有効になりません。

設定を保存する

「ファイル」メニューの「上書き保存」または「名前を付けて保存」を選択します。「名前を付けて保存」を選択したときは、表示されるダイアログボックスで設定したいファイル名を付けて保存します。

Note

一度も名前を付けて保存しないで「上書き保存」を選択した場合は、「名前を付けて保存」を選択したときと同じダイアログボックスが表示されます。

保存した設定に変える

「ファイル」メニューの「開く」を選択し、表示されるダイアログボックスで保存したファイルを開きます。

Note

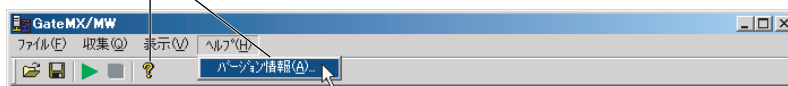
下位バージョンの GateMXMW で保存した設定ファイルを開いてデータ収集を実行した場合、設定してある MX100/MW100 すべての接続に成功したときだけ、GateMXMW 終了時に設定ファイルを現在のバージョンのフォーマットで保存します。次回起動時に、この設定ファイルが開いた状態で起動します。

2.7 バージョン情報を表示する

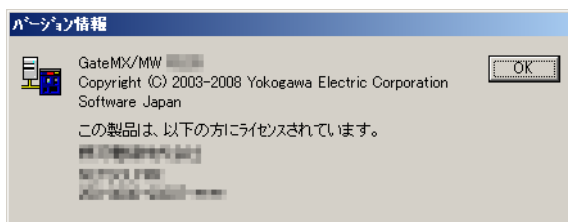
操作手順

ヘルプメニューの「バージョン情報」ボタンをクリックするか、ヘルプメニューの「バージョン情報」を選択します。

バージョン情報の表示



下図のような「バージョン情報」ダイアログボックスが表示されます。



3.1 エラーメッセージと対処方法

エラー操作時に表示されるメッセージとその対処方法を説明します。

コード	内容	対処方法
E0002	メモリが足りません。直ちに終了してください。	他のソフトウェアを終了し、GateMX/MW を再起動してください。または Windows を再起動してください。
E0004	ライセンス番号が間違っています。再インストールしてください。	ソフトウェアを再インストールしてください。
E0211	ファイルに書き込めません。	ディスク容量があるか、書き込みを許可しているか、またはファイルシステムが正常かを確認してください。
E4800	同時に起動できる Gate ソフトウェアの上限数を超過しています。	Gate シリーズでは同時に起動できる種類数は、購入した Gate ソフトウェアのライセンス数までです。すでに起動している Gate ソフトウェアを終了するか、新たにライセンスを購入してインストールを行ってください。

索引

D

DAQLOGGER 2-9

I

IP アドレス / ホスト名 2-2

ウ

上書き保存 2-10

運転情報 2-6

エ

エラーメッセージ 3-1

キ

起動 2-1

機能概要 1-1

サ

探す 2-2

シ

システム No. 2-7, 2-9

システム構成 1-3

収集 2-6

収集周期を変更する 2-4

収集停止 2-8

終了 2-1

取得 2-4

セ

接続するユニット登録 2-2

ソ

ソフトウェア構成 1-3

ソフトウェア使用許諾契約書 ii

ソフトウェアの環境条件 1-2

チ

チャンネル 2-5

チャンネル数を変更する 2-4

ツ

通信状態 2-7

テ

停止 2-8

データ収集 2-6

ト

登録 2-2

ナ

名前を付けて保存 2-10

ネ

ネットワーク上のユニット一覧 2-2

ハ

ハードウェアの環境条件 1-2

ホ

ポート番号 2-10

メ

メッセージ 3-1

モ

モニタ周期 2-8

ユ

ユニット番号 2-7

リ

リモートモニタ 2-9